

# タイ・インドネシア出張報告

伝統医学プロジェクト委員長 朔 元洋

林原フォーラムの協力要請を主目的に8月9日～16日にタイおよびインドネシアに出張させていただいたので、その成果を報告する。

## タイ

### チェンマイ

ダナマナマイ会チェンマイ支部の招きでチェンマイ大学医学部を訪問した。[Dhanammanama i会は、故Uav Ketusingh元シリラート大学生理学教授の精力的リーダーシップで誕生、発展してきたタイの伝統医学を見直そうという全国組織である。筆者は先生の創設されたタイ伝統医学大学(Ayurved Vydyalai)にて2年前臨床研修をさせて頂いた。]

8月10日、昼食を兼ねてレセプションを催して頂いた。出席者は Tawan kangwanpong元学長、Boonlong Sivasomboon元医学部長、Tejatat Tejasen教授(解剖学)、Pongsiri Prathnadi助教授(外科学)、Maitree Sutajit助教授(生化学)、Dr. Sumitra Thongprasert講師(内科学)ほかという錚々たる顔ぶれで、予想以上のダナマナマイ会の懐の深さに驚かされた。外科医ながら農村地帯のプライマリケアにも関与しタイ伝統薬草薬に造詣の深いプラツナデイ先生に林原フォーラム(パート2)のシンポジストとしての参加を要請し、内諾を得た。

2時からはチェンマイ大学医学部にて講演をする光栄な機会を与えられた。約30名の聴衆(主に医師)に「日本における漢方医学の現状」と題し、林原フォーラム・パート2やAMDA伝統医学プロジェクトの背景を総括的に論じた。漢方薬に関する種々の統計や科学的研究のデータを多く示し、伝統医薬の可能性と西洋医師としての科学性とのジレンマを日本よりも強く抱えた状況にあるゆえに、幸い興味深く聴いて頂けたようである。夕方は、近くの寺Wat Umongの僧医Pra Meng師を訪ねた。約1000種類の薬草を有する薬草園は見事であった。

11日、チェンマイ伝統医学学校を見学した。薬草薬処方やマッサージを教育するが全日制ではない。

ついで郊外に、薬草園を有するクリニックを開業しているVeruree Srithep先生を訪ねた。約1000種類の薬草を栽培し、うち12種類を大量生産、自前で製品化して使用していた。主に西洋医学的に治療で治癒しない慢性病患者を対象としている。

ビジネスとしても成功しており、民間の伝統医薬に対する根強い人気を感じた。

ダナマナマイ会チェンマイ支部は伝統医療を活用したヘルス・センター計画を進めている。建設予定地を見学し、どのような協力が可能かを忌憚なく議論した。今後、AMDA全体としても検討に値するプロジェクトと考える。

### プラチンブリ

12日、一転バンコクから前述のタイ伝統医学大学(Ayurved Vydyalai)校長のBunruang Niyomporn先生に御同行頂き、カンボジア国境に近いプラチンブリに車で向かった。厚生省主催の第2回伝統医師全国大会にSumruay Tupcharven先生を訪ねた。先生は、厚生省所属でプラチンブリ地方の役所に勤務、若手女医ながらタイ伝統薬の活用を推進するリーダーとして知られる。林原フォーラムのシンポジストとしての参加を要請し、内諾を得た。特別な計らいで同全国大会において30分の講演を許可され、約80名の聴衆(主に若手の伝統医師、若干の西洋医師と役人)にチェンマイ大学と同様の講演を簡略化して行った。

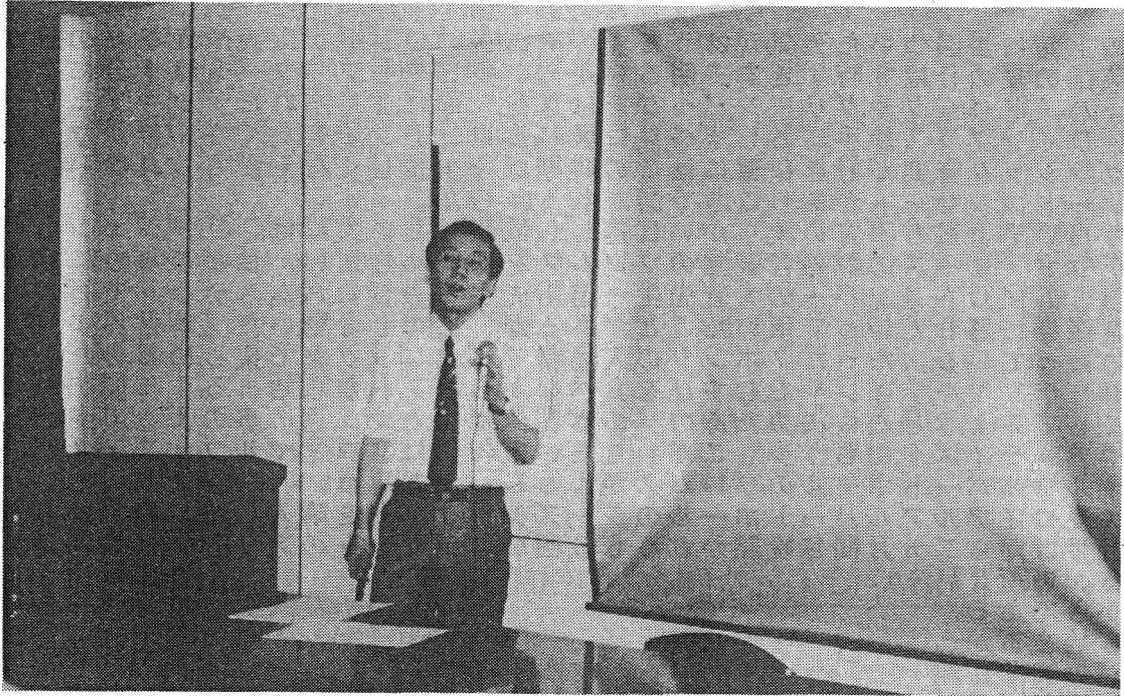
## インドネシア

### ジャカルタ

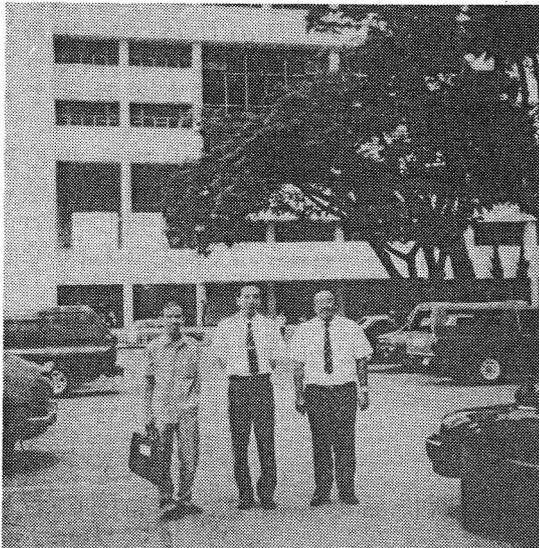
厚生省ジャカルタ・ヘルス・サービス・センターにDr. Suhantoro DSMを訪ねた。先生は、同センターの部長、インドネシア医師会の役員を兼任、ジャカルタ市内の全西洋医学クリニック(#3000)、伝統クリニック(250)、針灸院(300)など医療関係機関を統括、管理する立場にある。御自身は伝統医学を実践しているわけではないが、その潜在的効用を認め、インドネシア薬草薬jamuを現代社会に適合した形で発展させていくことに腐心しておられる。ここでも日本での漢方医学の再評価の現状をスライドをまじえて説明させて頂いたが、科学的研究や実践状況のデータに大いに興味を示された。同先生に林原フォーラムのシンポジストとしての参加を要請し、内諾を得た。

AMDA IndonesiaのDr. A. H. Tantra(Pandang島)と電話連絡し、Dr. Faisal Yunus(Indonesia大学第2付属病院薬科部長)に面会した。2人とも日本留学経験があり、日本語は堪能である。ユヌス先生の案内してもらった薬飲料カクテルを出すjamuのドリンクショップは一見カウンターのあるバーのようで、独特の伝統薬の活用法は興味深かった。

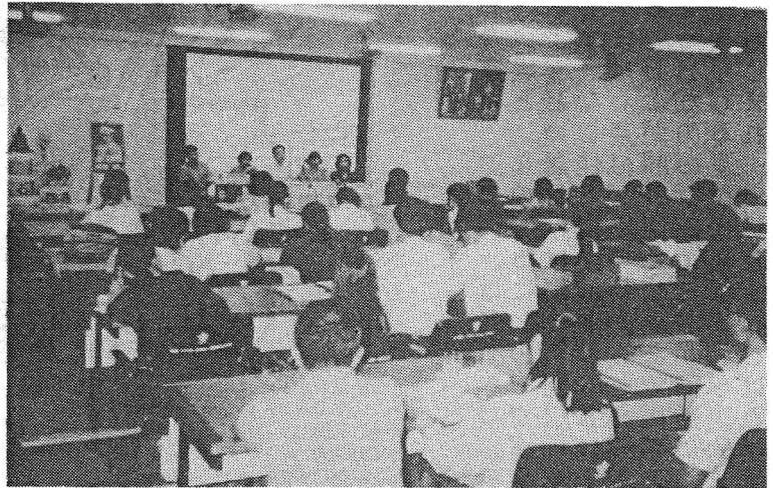
旅中、AMDAに対する期待、評価は予想以上に大きく、それに応えられるようAMDA International全体の組織強化を急ぐ必要を強く感じさせられた。



「漢方医学の現状」について講演する、朔 元洋医師(チェンマイ大学医学部)



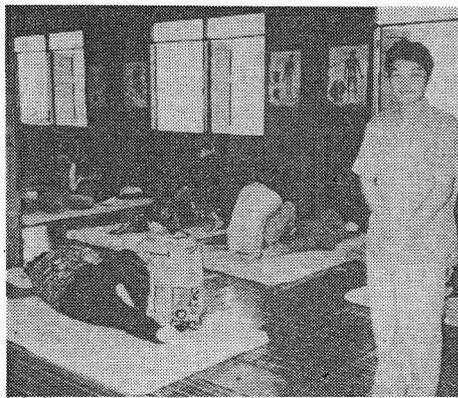
チェンマイ大学医学部にて  
プラツナディ先生(右)と  
スタジット先生(左)



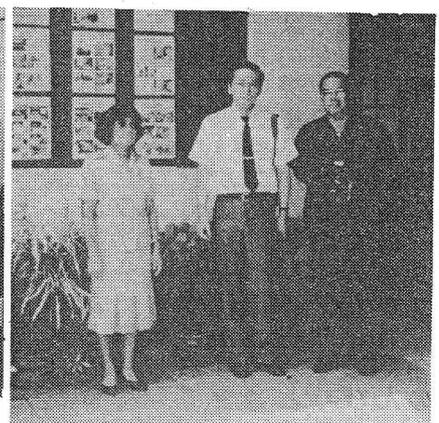
第2回伝統医師会議。  
壇上、右から2人目がスムルアイ先生。  
サケオ病院(プラチェブリ)にて。



Aqurved Vqdgalai大学教授  
Bunruang先生(右)と



チェンマイ伝統医学専門学校  
マッサージ法の臨床実習。  
研修生には外国人も多い。



薬草併用のクリニックにて  
スリテップ先生(左)

92/9